

手洗い うがい 消毒

マスク の日々から



早！師走！！カレンダーの

残りが、もうありません。

暖冬の予報通り、暖かな

日が続き、二カ領用水沿いの

いちようも混乱ざみ、見事な

黄葉の隣は、まだ青々緑の木

その隣は銀杏がたわわに

実を付けていて木々もあり

大変困っていた様子です。

例年木枯らしの中で

慌ただしく追われるように

過ぎすこの時期ですが、暖か

な日々は何となくゆったり

しているようです。

さて今年の一大事は

登山の中止でした。

前号で中止のお知らせを

しましたので、その後の経過

をお伝えします。

マイコプラズマ感染症に関するその後

8月の不調者がマイコプラズマに感染して

いると診断されたからは、感染拡大予防の為

毎日「手洗い・うがい・消毒・マスク着用」

を保健所の指導もあり、徹底していました。

しかし肺炎から入院になる重症例から

始まり、10月になるまで感染が続き、登山の

中止を決定した後も中々終息せず、職員の

感染者7名（内2名肺炎）も出してしま

ました。医療関係には、施設の状況を報告

していたので、咳・発熱の症状のある方の

受診時には、抗菌剤を処方していただき、重

篤化する事は防げました。

10月下旬になり新たな感染者が出なくな

ったので、保健所の確認を経て「終息」する

ことができました。2か月間のマスク着用が

解かれた時に、空気が清々しく感じられたこ

と、仲間たちのさっぱりとした表情が印象的

でした。

No.90
2015年12月18日
社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会
川崎市多摩区
菅馬場1-18-17
TEL 044-946-1308

この事態は、行政各所管（神奈川県・川崎市・多摩区）に「感染事故報告」として書類を提出してあります。

やれやれと一息つく間もなく、ノロウィー
ルス・インフルエンザの季節を迎えます。
予防の基本（手洗い・うがい）だけは
徹底していきましょう。

「手洗い・うがい」って仲間たちにはあんがい難しいのです。指の間まで洗えない人。うがいで「ガラガラ」「ぶくぶく」が苦手な人。でも感染症はこの度のことでこりましたね！！



地元の小学生と交流授業

地元の下布田小学校では、4年生になると、「福祉」や「共に生きる」とはどういうことか考える授業の一環として、地域の福祉施設に訪問し、交流をする授業があります。

はぐるま共同作業所とは、二十数年間に渡る交流が続いています。

今年、はぐるまに二十七名の生徒が合計5回やってきました。まずは、ここはどんなところ？ということから学びました。自分たちやそのお父さんお母さんと同じように、普通に生活し、普通に働いているんだな、ということを実感してくれたようです。

ですから、障害のある人たちは年間どれくらいお金を得られるんだろう？という問いには「500万」「400万」などと答えてくれましたが、実際にははぐるまの仲間ほぼ全員が障害者年金と工賃を合わせても年収は120万円以下です。



また、ボールペンの袋入れの受注作業と一緒にやって、「この一本を入れるといくらのお金がもらえるでしょう？」と聞くと、「100円？」「10円かなあ」様々な意見を言ってくれましたが正解は出ず。それもそのはず、30銭という見たこともない金額だからです。

そのような体験をしてお金を稼ぐことの大変さ、障害のある人の生活の厳しさを知ってくれたからでしょうか、下布田小学校で行われた「下布田まつり」では、はぐるまも招待され自主製品など販売しましたが、子どもたちが何と一生懸命販売を手伝ってくれることか！なかば強引に(笑)「先生！これ買って」「よっしゃ、〇〇完売！」次々と品物が消えていきます。

結果として、このようなバザーではふつうは考えられない6万円以上の売上になったのです。

このような交流をするにあたって、学校の先生方とも話し合って、どのように学習を進めていくか打ち合わせをしました。子供たちに何を学んでもらうべきなのか、はぐるまとしては、まずひとつは「違い」を知ること。しかしその違いも互いの工夫によっては垣根を限りなく低くすることができます。もうひとつは、障害があってもなくても人として「同じ」であること。

あたりまえに要求をもち、それをかなえるために、ふつうに努力している、自分たちと同じような存在であるということを知った中で知ってもらいたいと思っています。

知らないということが一番の障壁になります。知ること警戒心もなくなり、あたりまえの存在として認識していつてくれるものと思っています。彼らが大人になった時、違いがある人もあたりまえに助け合っている社会を築いてくれることと信じています。

初めは、仲間に恐る恐る話しかけていた子供たち。2回3回と機会を重ねることに会話もスムーズになり何やらテレビ番組のことで盛り上がりつつある人たちも。

コロナ、お仕事です、手を動かして、などと言うのは野暮って、手も動かして、

【はぐるま共同作業所 金田 圭二】



きょうされん全国利用者学習交流会in広島 報告



きょうされん全国利用者部会
 交流会in広島
 はぐるまき仲間自治会書記
 山田 俊輔
 全国の利用者の皆様が集まりました。
 かつて、戦争がなくて、広島に
 原爆が落とされました。
 原爆資料館では、原爆の恐ろしさ
 など、写真やビデオ上映を見て
 まいました。
 戦争は怖く、数えきれない人々
 がたたくせきになられたので、
 私はどこもかわいそいだ、
 思いました。
 どんちんちんがあっても、戦争は絶対
 イケないし、私は訴えます。
 せうかくなので、広島城にも
 寄ってみました。

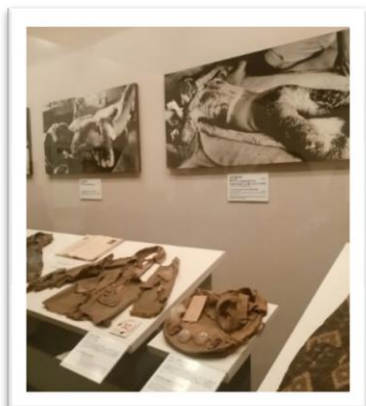


当時を再現した展示がリアルでした

去る十二月十一、十二日で、
 きょうされん主催の「全国利用者学習交流会」
 が広島で開催されました。はぐるまからも二名
 の仲間が参加しました。
 一日目は「かんがえてみよう制度のこと」。
 現在、障害者に最もかわりが深い「障害者総
 合支援法」が施行後三年経つにあたって見直し
 の話し合いが行われていますが、厚生労働省の
 社会保障審議会でありながら、財務省の意向が
 色濃く反映されています。つまり、財政論から
 の展開であり、社会保障費をいかに抑えるか、
 そのために頭をひねっている状態であり、困っ
 ている人たちをどうするかという視点に欠け
 ています。具体的にいうと利用者を減らすため
 グループホームは障害の軽い人は利用できな
 いようにしたり、六五歳以上の障害者は介護保
 険利用移行をすすめたりが検討されています。
 一方、利用者から自己負担金を徴収しようと
 いう考えも根強く出ています。医療や介護保険

利用の負担が増える中、障害者だけ払わないの
 はおかしい、という世論をつくっているように
 も思えます。利用者負担が増えればお金に入る
 し、利用を控える人も増え、財務省としては一
 石二鳥でしょう。いずれにしても、これらの動
 きをつぶさに拾い上げ問題化し、改悪には抵抗
 していかなければなりません。

二日目は、「かんがえよう平和のこと」。戦後
 七〇年にこの広島で、戦争体験者の小方さ
 んの話を聞きました。原爆の落とされた八時十
 五分、一瞬にしてあたりは地獄と化しました。
 トイレにいた小方さんは一瞬にして気を失い、
 気が付いた時にはがれきの中でした。叔母に助
 けられ這い出した景色は火の海。人々のうめき
 声、ただれた体で逃げまどう人々、赤ぶくれに
 なった死体、まさに地獄でした。長年、療養を
 必要とし、近年も度重なるガンとの戦いでした。
 当時のことを考えるのがつらく、何十年も体験
 を話すことができなかったそうです。
 お話を聞いた後は平和祈念資料館へ行きま
 した。





されたものが悲惨な状況を物語っています。

戦争をしたい人など誰もいません。原爆の被害を受けた国だからこそ、日本から平和を訴え、加害者にならないように、ということを中心に誓う体験となりました。

はぐるま稗原農園収穫祭への

「ご来場ありがとうございました！」

はぐるま稗原農園収穫祭2015へのご来場をいただき誠にありがとうございました。前日までの雨模様にも、開催自体が心配をされておりましたが、当日は晴れ渡る秋空の下で芋掘りや一流シェフによる絶品料理、趣向を凝らしたステージ等、農園のフェスティバルならではの1日を満喫していただけたと思います。

今年の収穫祭の目玉企画は何といっても仲間たちのステージです！仲間のバイオリンは

大緊張でしたがとても新鮮でした。美声が自慢の民謡演奏、そしてこの日の為に結成をされた「太鼓クラブ葡萄(ぶどう)」(仲間たちで命名)による演目が披露をされました。



仲間たちによる演目は、大いに盛り上がりました！

3年目を迎える収穫祭には、340名を超える方々にご来場をいただきました。特に嬉しかったことは、来場者の大部分が工房(はぐるま稗原農園)のご近隣の子ども達とそこご家族だったという事です。

ステージの設営から解体、当日の売店の運営に至るまで、地元青年会(長栄会)に全面的なご協力をいただけた事や、子ども向けの体験・アートクラフト企画を運営してくださった地域団体の皆様のご支援の賜物であったと感謝いたします。

また、ステージ運営では、太鼓チーム「里空」

の皆様、ピアニストの前山さん、海ちゃんこと海藤節生さん、農園フェス実行委員会メンバー等に会場を盛り上げて頂きました。こんなにもたくさんの方々を支えられ収穫祭が開催できていることを改めて実感いたしました。

収穫祭での売上金21万2580円は仲間たちの授産会計(仲間工賃会計)へ、毎年大人気の石窯ピザの収益金49,000円は石巻市十三浜の支援活動金としてお渡しをさせていただきます。この様な形で東北とつながって行ける事も嬉しく思います)



今年も子ども達の笑顔と歓声に溢れる収穫祭となりました



大人気企画のさつま芋掘り&宝探し

課題は沢山ありますが、松井実行委員長、ビストロ・カプリシューの菊池シェフ、ファミーユの会(家族会)はぐるま後援会の皆様とこれからも、手作り感一杯の収穫祭を続けていきますので、来年の収穫祭にもぜひ足を運んでいただきたいと思えます。

実行委員会 福田 真